

			部会名	人づくり・地域づくり部会
施策No.	4-1-2	施策名	コミュニティ会議の基盤強化	施策主管課 地域づくり課
施策の目指す姿	コミュニティ会議を中心に、自主的な地域づくり活動を行っています			
■ 施策評価シート(平成29年度実績評価)について				
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。 (前年度評価時の今後の方向性)について、3項目のいずれも、複数年度にまたがって取り組まなければ実現不可能と思われる内容を記載しており、翌年の再評価を前提としたものになっていない。評価を毎年行うのであれば、今後の方向性には、次の評価までの具体的な取り組みの目標を記載するべきである。また、(反映状況)の記載内容について、以下の3点の記載に不明確な点がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(反映状況)の1つ目について、3地区でのワークショップ開催の結果を「コミュニティ会議と市との協議の場」で共有したことが、「対話」を取り入れる仕組みの構築においてどのような意義を持つのか説明がなされていない。共有したことで、仕組みの構築がどの程度実現できたのかが読み取れるようにするべきである。 ・(反映状況)の2つ目について、「地域づくり講演会を開催」したことが、より一層の地域づくりの推進を図る上でどのような意義を持つのか説明がなされていない。講演会の開催によって、一層の地域づくりの推進がどの程度実現できたのかが読み取れるようにするべきである。 ・(反映状況)の3つ目について、地域づくり交付金のあり方の協議や検討の継続が、より良い地域づくりの仕組みの構築においてどのような意義を持つのか説明がなされていない。協議や検討の継続により、より良い地域づくりの仕組みの構築がどの程度実現できたのかが読み取れるようにするべきである。 				
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(新たに取り組むべき事業はないか)の2つ目について、「地域自治に関する総合的な懇談会の開催」の具体的な内容が分からないので明記するべきである。 ・地域の各層(部会の質疑によれば、特に若者)の参加の増加が課題であるにもかかわらず、この課題に対応する事務事業がどれなのか明確ではないので分かるような説明をするべきである。 				
<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。 施策としての達成度は「A」であるにもかかわらず、構成する事務事業の成果がいずれも「B」である。更なる施策の成果の向上に向けて、各事務事業のB評価のA評価への向上を図るための分析が必要である。</p>				
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(今後の方向性)については、1つ目の(ワークショップ等の「対話」を取り入れた仕組みの構築)という内容が、前年度評価時の今後の方向性と同じである。また、3つ目の(地域づくり交付金のあり方の協議継続)と、4つ目の(より良い地域づくりの仕組みの検討)は、文面を読む限り、前年度評価時の今後の方向性から内容が後退している。施策の達成度(A評価)に対し、文面の記載内容が釣り合っていない。 ・(課題)の3つ目については、交付金のあり方の検討がなぜ必要なのか、背景にある問題点の説明がなされていないため明記が必要である。 				
<p>●シート記載内容全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の評価の振り返りの欄の(反映状況)の内容は、それが今後の方向性に記載された目標の実現にどの程度つながるものなのかが分かるように記載するべきである。 ・評価を毎年行うのであれば、今後の方向性には、次の評価までの具体的な取り組みの目標を記載するべきである。ただし、今後の方向性として、実現に複数年を要する目標を設定せざるを得ない場合は、目標の実現に向けた複数年にまたがる道筋を、行程表などで分かりやすく示すべきである。実現に複数年を要する目標を、実現への道筋を示さずに複数年続けて同じ文言を用いて(今後の方向性)に記載し続けることは、市民に対して課題解決の取組が進歩していないとの印象を与える。 				